



「有明海の思ひ出」

伊東静雄

諫早市で生まれた伊東静雄は京都大学で本県出身の
頼原退蔵に師事し、大阪市住吉中学校教師の時、第一詩
集『わがひとに与ふる哀歌』を発表した。

「有明海の思ひ出」「帰郷者」「なれとわれ」など、郷
里への嫌悪と憧憬が底辺に流れていると言えよう。

諫早市の諫早公園にある「伊東静雄詩碑」には、『反
響』所収の詩「そんなに凝視^{みつ}めるな」から次の言葉を抜
粋してある。

手にふるる野花は それを摘み

花とみづからを さゝへつつ 歩みをはこべ

菜の花の似合う町に生まれ、死後、永遠の帰郷を果た
した詩人伊東静雄は、文林院静光詩仙居士となって生家
近くの廣福寺の墓地に眠っている。毎年三月にこの碑の
前で「菜の花忌」が営まれているが、同日、伊東静雄賞
の贈呈式も行われる。